

授業概要

近現代の代表的な短編の作品を取り上げ、作品の表現を吟味しつつ、そこにどのような主題が潜んでいるのか、作家の個性がどのように反映されているのかを捉えるとともに、読解によって得たものを的確な日本語で表現できるように指導する。それによって、個別の作品を理解するとともに、それを生み出した作家の個性を知り、さらに彼ないし彼女が近代日本の時代社会をどのように生き、捉えたのかを理解することを目指す。春期におこなわれる講読Ⅰでは明治・大正期の作品を読み解いていきたい。

授業計画

第 1 回	ガイダンスー作品・作家・社会の連関
第 2 回	森鷗外『舞姫』を読む1
第 3 回	森鷗外『舞姫』を読む2
第 4 回	森鷗外『舞姫』を読む3
第 5 回	夏目漱石『夢十夜』を読む1
第 6 回	夏目漱石『夢十夜』を読む2
第 7 回	夏目漱石『夢十夜』を読む3
第 8 回	谷崎潤一郎『秘密』を読む1
第 9 回	谷崎潤一郎『秘密』を読む2
第 10 回	谷崎潤一郎『秘密』を読む3
第 11 回	志賀直哉『児を盗む話』を読む1
第 12 回	志賀直哉『児を盗む話』を読む2
第 13 回	芥川龍之介『地獄変』を読む1
第 14 回	芥川龍之介『地獄変』を読む2
第 15 回	芥川龍之介『地獄変』を読む3
第 16 回	まとめ：期末レポートの提出

到達目標

- ・代表的な作家による作品の特質が捉えられる。
- ・作品に時代社会の姿がどのように織り込まれているのかを語るができる。
- ・作品の主題と表現の間にどのような関係があるかを説明できる。

履修上の注意

この作品は講義と演習の中間的な形態で行われる。教員から作家・作品について導入的な紹介、解説を行いつつ、受講生も主体的に作品を読み、意見を発表することが求められる。近代文学の専攻者である必要はないが、ある程度近現代文学を読むことに興味を持っていることが望まれる。

予習・復習

予習：授業で扱われる作品を必ず事前に読んでおくこと。

復習：授業の内容を踏まえてテキストを読み直し、小レポートを作成する。

評価方法

期末レポート（30%）、各作品について的小レポート（60%）、授業参加態度（10%）によって評価する。

テキスト

各作品のテキストは、教員がそれぞれコピーを準備し、配布する。

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年（ISBN）：